

自動車産業における 稼ぐ力のレベルアップとESGの考え方



三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) チーフアドバイザー 松島憲之氏が講演

第254回 会員研修会開催

日 本自動車会議所は2018年12月17日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第254回会員研修会を開催し、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)コンサルティング事業本部チーフアドバイザーの松島憲之氏が「自動車産業における稼ぐ力のレベルアップとESGの考え方」と題して講演した。参加者は約70名。

松島氏は、「いま、経営において非常に重要なのがESG（環境・社会・ガバナンス）の考え方。例えば、自動車産業は環境問題に対していろいろと対応しなければならない業種であり、生き残りのためにはより感応度を高めていかなければならない」と話し、自動車業界の現況などを説明しながら、ESG投資が注目される背景や動向、課題などについて話し今後の自動車産業を展望した。

【講演のポイント】

(1) ESGが注目される背景

- ・ 企業価値を生む源泉が有形資産から人材やブランドなどの無形資産（非財務情報）にシフト
- ・ 長期投資志向が進む中で企業の持続可能なビジネスモデルが求められるが非財務情報による説明が必要
- ・ 社会的課題の解決が持続的成長に必要なになる

(2) GとESは性格が異なる

- ・ 長期投資家は、ESGの個別要素を単独で評価するのではなく、ビジネスモデルの持続性や戦略の実現可能性にESGがどのような影響を与えるかに関心を寄せる。
- ・ 資本生産性（収益）を気にせずESGのみを語るだけの企業には投資はしない。
- ・ ESGは相互作用を持つ1つのパッケージだが、①

企業の持続可能性に関連するESと、②企業価値を高める前提となる規律としてのGとは、性質やタイムホライズンが異なる。ESへの対応やレベルアップの鍵はGの強化が握っている。

(3) 自動車産業に対して投資家がESG投資の観点から重要視する点

- ・ 自動車産業には100年ぶりの大波が押し寄せている。未来は自動走行で樹脂製の電気自動車が主力になるが、これらに使用される新技術は従来の延長線上ではなく、非連続イノベーションから生まれる点に注意が必要だ。
- ・ 自動走行では走行状況を瞬時に判断し学習するAIチップや高速通信技術、電気自動車では長時間使用可能なバッテリー、新素材では加工性の高い軽量で強い新しい樹脂の開発が重要になる。今後は、このような非連続イノベーションを確保するための買収や提携などが急速に進み、自動車産業の収益構造は大きく変化する。自動運転では、他業種のトッププレイヤーが新規参入してきたが、これらの新規参入企業が一気にパワーバランスを覆す可能性もある。
- ・ 投資家がESGの観点から重要視する点は、①経営者が企業の持続可能性を意識しているか、②そのためにガバナンスを強化しているか、③未来のクルマで環境に貢献して社会を良い方向へ導くという企業理念を持ちながら収益構造改革を行い新しい価値創造プロセスを構築できるか、④その具体的な戦略やビジネスモデルを投資家や従業員や取引先などのステークホルダーにしっかりと説明できるかなどである。